

思い出という宝物を胸に新たなスタート

## 只見中学校卒業証書授与式

春の訪れが少し近づいた3月13日、只見中学校の第5回卒業証書授与式が、同校体育館で厳粛に行われました。

3年間の輝かしい思い出を胸に只見中を巣立つ35名の卒業生一人一人に、吉津政一只見中学校長から卒業証書が手渡されました。

吉津校長は、「今まで学んできた力を惜しみなく発揮し、これからも前向きな学ぶ姿勢を忘れずに、目標に向かって進んでいくことを願っています」と式辞を述べました。また、在校生送辞で鳥谷拓実さんは「先輩方が築いた伝統をしっかり受け継ぎ頑張ってください」とを誓います。先輩方も学んだ力を発揮し活躍してください」と述べました。次に、卒業生答辞で柳下一貴さんが「部活動で礼儀や感謝の心を学びました。学校生活で培った友情はかけがえない宝物です。先生の教えを胸に自分で道を切り開き歩んでいきます。ありがとうございます」と述べました。

最後に、卒業生や在校生が式歌の「旅立ちの日に」などを合唱し、別れを惜しむ卒業生のなかには涙を流す生徒も見られました。卒業生の皆さん、おめでとうございます。



▲卒業証書を手に見中を巣立つ卒業生

楽しく過ごした6年間は大切な宝物

## 町内小学校卒業証書授与式

春の到来が待ち遠しい3月23日、只見・朝日・明和の各小学校では卒業証書授与式が行われました。

只見小学校では、6年間の全課程を修了した14名の児童に、高橋吉博只見小学校長から卒業証書が手渡され、受け取った卒業生は一人一人、お父さんやお母さんの前に行き「6年間楽しく只見小学校で生活できたのは、お父さんお母さん、家族、皆さんのおかげです。中学校に行ってもがんばります」などと話し感謝の気持ちを伝えました。

高橋校長は、「三感王をとつてくださいます。①実感（本物に接したくさんの経験をしてほしい）②感動（小さなことでも心を動かせる人、人に感動を与えられる人になってほしい）③感謝（人に感謝する心を持ち、ありがとうと心から言える人になってほしい）の三つの感じる心の王です。力いっぱいこの精神を忘れずにがんばってください」と式辞を述べました。

最後の別れのことばでは卒業生が6年間見守り育ててくれた感謝の気持ちを伝えました。各小学校を卒業される皆さん、おめでとうございます。



▲卒業証書を受け取る6年生

### 只見の魅力を再発見

## 会津大学による 調査研究

会津大学の学生が3月21日から3月23日までの三日間、森林の分校ふざわに滞在し、地域の伝統文化に触れながら、その地の生活様式などを学びました。この調査研究事業に参加し、布沢地区を訪れたのは、同大学の留学生や教員ら、計11名。「グローバルな感性が捉えた会津の知られざる魅力」をテーマに行われた事業では、わらじの制作や、そば打ち体験などが行われ、留学生は真剣に取り組んでいました。

研究結果は今年の6月ごろに、インターネットを通じて世界中に発信される予定です。



▲地域の文化に触れる留学生

ユネスコ・エコパークを学ぶ

地域ブランド確立アクションプラン講演会

地域ブランド確立アクションプラン講演会が3月18日に季の郷湯ら里で開かれ、約70名が受講しました。講師は、横浜国立大学学長の鈴木邦雄氏で、国連教育科学文化機関(ユネスコ)の認証制度「エコパーク(生物圏保存地域)」について講演されました。鈴木学長は、生物多様性や実践的な自然保全と再生のあり方などについて紹介。只見の森の価値を高める方策などを話されました。ユネスコ・エコパークは自然保護と自然資源の利用を同時に推進する制度で、人間と自然との共生実現に向けユネスコが取り組んでいる主要事業のひとつです。受講者からはエコパークに認証された場合のメリットなどについて質問が出され、活発な意見交換が行われました。



▲講演される鈴木邦雄学長

東北農政局長賞を受賞

只見町学校給食センター

農林水産省が主催する「第4回地産地消給食等メニューコンテスト」の学校給食部門で、只見町学校給食センターが、東北農政局長賞を受賞しました。福島県内では唯一の受賞です。受賞したメニューは、昨年秋季に行われた「全国学校給食甲子園」にも初出場した「伝統野菜を使ったお祭り献立」でアワやキビなどを使ったご飯をはじめ、郷土料理の「ざくざく」、地元産ナスで作った「建次ナスのチリソース」、「アスパラガスの梅かつお和え」などが主なメニューです。地元産の伝統野菜などを使ったオリジナルの献立が高い評価を得ました。献立を考えた横田みえ子栄養教諭は「安全で安心して食べられる地元で採れた野菜などの食材をもっと給食に使っていきたい」と考えを述べました。表彰式は、3月21日に仙台市で行われました。

アメリカ・カリフォルニア州から感謝状

佐藤長次さん(大倉)

大倉在住の佐藤長次さんに、アメリカ合衆国のカリフォルニア州から感謝状が贈られました。佐藤さんは、毎年1回2月末にカリフォルニア州のロサンゼルスで、全米拔刀道連合会が主催し開かれる全米拔刀道大会に指導員として8回参加、世界8カ国から約100人の武道家が参加する同大会で居合いを披露され、武道を志す方を指導されています。全米拔刀道連合会は、玄武会会長で映画俳優でもある出村文男氏(ロサンゼルス在住)が立ち上げた世界の武道家が所属する団体で、佐藤さんは同連合会の指導員として、毎年開かれる大会に招待されています。このような活動が高く評価され、カリフォルニア州から感謝状が発行されたものです。佐藤さんは、全日本拔刀道連盟及び全日本戸山流居合道連盟それぞれの錬士6段の腕前、二十歳のころから武術の道を歩み、技を磨いておられます。毎年、



▲感謝状を手にする佐藤長次さん



▲賞状を手にする横田栄養教諭(中央)と目黒町長(右)と齋藤教育長

香港でも武術の指導をされている佐藤さんは、「世界に武道を広めていきたい」と笑顔で話しました。